

フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb.

キク科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

生育地に限られ、個体数も少ない。生育地の開発整備などで全国的に分布域が減少している。(現況:V2-)

形態

高さ1~1.5mの多年草。下葉は小形で花時には枯死し、中葉は対生し、多くは3深裂する。葉柄は短く、葉の表面は光沢があり、裏面は腺点がない。頭花は淡紅紫色で、散房状に多数つく。頭花は筒状花だけからなる。

国内分布

本州(関東以西)~九州。

県内分布

加賀中央区、南加賀区。

生態など

多年草、花期は8~9月。

生育環境

草地や川岸の湿った土手。

危険要因

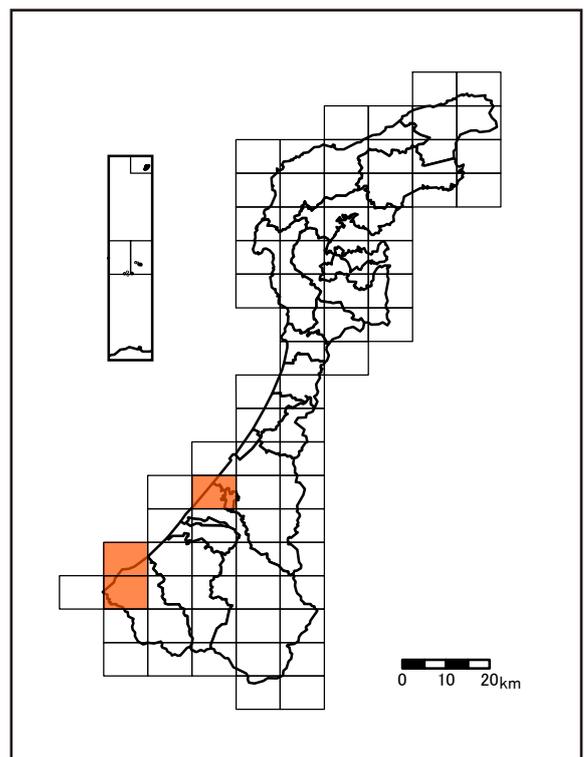
河川開発、道路工事、湿地開発、自然遷移、園芸採取、産地局限、洪水。

特記事項

山上憶良のいう秋の七草の一つで、奈良時代に中国から渡来したものとされている。葉や茎を乾かすとクマリンが芳香を放つ。近年、栽培種のサワフジバカマが逸出してフジバカマと誤認されていることが多い。



林 二良・2005年9月18日・加賀中央



県内の分布